

# 看護学生の身だしなみ・ユニフォームの着用時における 指導に関する調査

渡邊光代 鈴木浩美  
(Mitsuyo WATANABE, Hiromi SUZUKI)

## 【要約】

《目的》看護系大学の看護基礎教育で、ユニフォーム着用を含む身だしなみを、どのような視点で指導をしているのかを明らかにする。

《方法》日本看護系大学265校で学生のユニフォーム着用時の身だしなみの指導をしている看護学領域責任者265名を対象に質問紙調査を実施した。

《結果》回収率は、30.0%であり、所属大学種別は、私立大学が68.8%、公立大学法人が16.2%、国立大学法人が15.0%であった。指導領域は、82.5%が基礎看護学領域であった。身だしなみのチェックリストの使用は、全体の42.5%であり、教員の身だしなみの指導で重要視した項目は、外見的にも清潔感がある、安全への配慮がされている、機能的であるの順であった。

《結論》指導ポイント項目の「機能的である」とチェックリスト項目の「頭髮の髪色、頬に髪が触れない（サイド）、襟に髪がつく」の3項目に有意差がみられた（ $p<0.05$ ）。これらは、教員が指導をする上で重要視している項目であることが示唆された。

キーワード：身だしなみ、ユニフォーム、看護基礎教育

## I. 緒言

日本看護協会は、2021年に「看護師の倫理綱領」として改題し、看護職などを対象とした行動指針を発表した。その中で、「看護職は、常に、品位を保ち、看護職に対する社会の人々の信頼を高めるよう努める」と明示し、看護に対する信頼は、専門的な知識や技術のみならず、誠実さ、品性、清潔さ、謙虚さなどに支えられた行動が大きいと述べている<sup>1)</sup>。

つまり、患者にとって看護職は、専門職としての役割を期待する対象であり、それにふさわしい清潔感のある服装や身だしなみを心がける必要があると言える。看護職にとって身だしなみを整えることは、服装や化粧、髪型や髪色などから与える印象も信頼関係に影響する。ケアの受け手や周囲に不快感を与えないように、華美な化粧は避け、髪はすっきりとまとめた身

だしなみを整えることが求められている<sup>2-3)</sup>。

身だしなみは幼少の頃から基本的生活習慣の中で徐々に獲得していくものである。看護基礎教育では、学生指導の一貫として入学後から看護学生としてのマナーについて伝え、教育上の観点から、看護職としてふさわしい身だしなみや言葉遣い等、看護実践をする職業人として患者が不快にならないような身だしなみを指導している。

看護職の身だしなみはエビデンスに基づいた感染・標準予防策<sup>2,4)</sup>を基本とし、外見的にも清潔感がある、安全への配慮がされている、健康的である、作業着として機能性があるを踏まえ、ユニフォーム着用時、髪型や襟元、袖口からインナーが出ないように服装の指導をしている。しかしながら、清潔感一つをとっても、髪色、頭髮のまとめ方など「自分ではしているつもり」でユニフォームを着用するため、繰り返し指導

が必要な状況である。多様な価値観をもち入学している学生に、看護専門職としての意識を芽生えさせ、自覚を促すために「なぜ、そうするのか」学生が理解できるように説明し、内省する時間や期間を確保していく必要があると考える。

一方、昨今、施設で働く看護師の身だしなみとして、服装の変化が挙げられる。時代のニーズもあり現在は、上下セパレートタイプやワンピース、スクラブスタイルなど様々である。また、ユニフォームの色も白だけではなく、カラー色や花柄などの組合せたユニフォームも見受けられる。衣服メーカーにおけるスクラブスタイルにはインナー（七分袖）を組合わせて採用している施設もある。

医療用のユニフォームの自由化は、魅力ある施設として捉え、働く看護師のモチベーションを高める要因になっているとの報告もされている<sup>5)</sup>。このように徐々に変化する看護師のユニフォーム着用時の身だしなみは、学習中の看護学生にとって、イメージのギャップに戸惑う事も予測される。

身だしなみに関する先行研究では<sup>6-12)</sup>、看護学生や看護師を対象にした身だしなみの意識調査や髪形、髪色に関するものや衛生面に関するもの、患者や家族を対象とした看護師の化粧に対する認識などが明らかになっている。しかし、指導する側である教育者を対象とした学生の身だしなみに関する調査研究は存在しない。

そこで、本研究では、看護職としての基本姿勢が問われるユニフォーム着用を含む身だしなみを、どのような視点で指導しているのかを調査し、看護基礎教育における身だしなみの実態を考察する。また、今後の学内演習や臨地実習の身だしなみの指導への示唆を得ることとした。

## II. 研究目的

全国の看護系大学で、看護基礎教育でユニフォーム着用を含む身だしなみを、どのような視点で指導をしているのかを明らかにする。

## III. 用語の定義

1. 身だしなみ：身だしなみとは「外見だけを整えるのではなく身の回りについての心がけであり、周囲に不快感を与えないように頭髮や衣服を整えること、ことばや態度をきちんとする」<sup>13)</sup>とされている。本研究

では、身だしなみとは、相手に不快感を与えないように頭髮や服装を整えると定義する。

2. ユニフォーム：制服ともいい「ある集団に属する人が着るように定められた服装」<sup>13)</sup>とされている。本研究では、ユニフォームとは、看護学生が学内での演習や施設（病棟）で着用する服装とすると定義する。

## IV. 研究方法

### 1. 研究デザイン

自記式質問紙調査による実態調査研究

### 2. 研究対象

日本看護系大学265校で学生への身だしなみとしてユニフォーム着用を指導している看護学領域責任者265名。

### 3. 調査期間

2018年2月～3月とした。

### 4. 調査内容

#### 1) 調査依頼する施設の抽出方法

文部科学省発表データをもとに2018年新設校を除く日本看護系大学の検索を行い、現在、一般社団法人日本看護系大学協議会2018年度会員校（大学一覧）である日本看護系大学265校とし、看護学領域で学生にユニフォーム着用を指導している領域責任者265名とした。

#### 2) 身だしなみアンケート対象者の概要

(1) 年齢、(2) 性別、(3) 所属大学種別と都道府県名、(4) 職位、(5) 看護教育経験、(6) 指導領域と教員数、数、(7) 学生定数と学生数の男女比など7項目とした。

#### 3) 所属大学での身だしなみの指導の項目

##### (1) 学生の身だしなみの指導ポイント4項目

井上らや照沼<sup>4)</sup>の書籍や先行研究<sup>8,14,15)</sup>を参考に研究者間で検討し作成した。

①外見的にも清潔感がある、②機能的である、③健康的である、④安全への配慮がされている、とし複数回答を求めた。

##### (2) ユニフォームに関する項目

①自費購入の有無、②エプロン着用の有無、③種別（上下セパレートタイプ、ワンピース、スクラブ、他）④購入枚数、⑤色彩（大学指定カラー、白、柄、他）

⑥交換の頻度の有無、⑦インナー（色、種類、他）⑧靴（ナース靴、運動靴、サンダル他）

### （3）髪型と髪色について

①髪型：襟につかない、前髪が頬に触れない（サイド）、コンパクトにまとめる、ネットの使用の有無、②髪色：地毛、美容院ヘアカラー指定番号の有無、自由などの3項目で回答を求めた。

### 4）身だしなみに関するチェックリスト項目

身だしなみのチェックリスト使用の有無、身だしなみに関するチェックリスト項目は、井上らや照沼ら<sup>4)</sup>のナースの品格（接遇・マナー指導ツール集）を参考に作成した。（1）ユニフォームは14項目、（2）頭髪は6項目、（3）化粧や眼鏡、コンタクトレンズは8項目、（4）装飾品、爪は8項目、その他（自由記載）の項目とした。4段階尺度法「よく指導する（4点）」「ときどき指導する（3点）」「あまり指導していない（2点）」「全く指導していない（1点）」で回答を求めた。

## 5. 分析方法

基本的属性ならびに設問回答について数値で得られたデータは以下のような記述統計処理を行った。記述統計処理では、度数、平均値、標準偏差をそれぞれ小数点第1位まで求め算出した。

身だしなみの指導ポイントの4項目中、1項目「外見的にも清潔感がある」は、全員が「指導を求めた群」に回答していることから比較対象とならないため除外した。他、3項目の「機能的である」、「健康的である」、「安全への配慮がされている」を、それぞれ「指導を求めた群」と「指導を求めている群」の2群に分け、身だしなみに関するチェックリスト項目（36項目）を4段階尺度で回答を求め、関連があるかを比較するために、Mann-WhitneyのU検定で分析をした。統計処理は統計ソフトSPSS ver. 24を使用し、有意水準を0.05以下とした。

## 6. 倫理的配慮

本研究対象への倫理的配慮は、目白大学倫理審査委員会の承認（17-044）に基づき実施していること、調査の協力は自由意志であり、回答しないことによる不利益は生じないこと、調査結果は調査大学が特定されないよう倫理的配慮を行うなど、本研究の趣旨・目的、内容、倫理的配慮について説明した用紙の添付をした。また無記名の自記式調査用紙を用いた。研究者

名と連絡先（所属機関）、回答者の匿名性の保持、データは本研究のみ使用することを約束する書面を添付し、切手を貼った返信用封筒を同封したものを郵送にて送付し、研究対象者から調査用紙の返信をもってこの調査の目的を理解、調査への参加に同意を得ると判断するとした。

調査から明らかになった研究成果は、学会や学術雑誌等に公表する可能性があることを明記した。研究対象施設及び対象者から希望があれば研究成果を対象者へ還元するとした。

## V. 結果

日本看護系大学265校、学生への身だしなみとしてユニフォーム着用を指導している領域責任者から質問紙への回答が得られたのは265名中80名であり回収率は30%であった。

### 1. 調査協力大学と対象者の概要

本研究の対象者80名の概要は以下の通りであった。表1に示す。

対象者の性別は、女性79名（98.8%）、男性1名（1.2%）であった。年齢は30歳～66歳の範囲であり平均年齢は48.5歳（SD=9.0）であった。所属大学種別は、私立大学が55人（68.8%）、公立大学法人が13人（16.2%）、国立大学法人が12名（15.0%）であった。回答者の職位は、教授が33人（41.3%）、准教授が24人（30.0%）、講師が17名（21.2%）、助教が6人（7.5%）の順であった。教育経験年数は、2年から40年の範囲であり、平均年数は16.3年（SD=8.4）であった。指導領域は、基礎看護学が66人（82.5%）と多く、順に成人看護学が8人（10%）、小児看護学が2人（2.5%）、老年看護学が1人（1.2%）、基礎・成人看護学が1人（1.2%）、管理看護学が1人（1.2%）、無回答が1人（1.2%）の順であった。指導教員の人数は、2名～10名と幅があり、平均人数は5.4人であった。所属大学の学生数は、50人～200人と、幅があり平均の学生数は88.1人であった。学生の男女の比率では、女子が89.1%、男子が10.9%であり、女子が全体の9割を占めていた。

### 2. ユニフォーム着用時の身だしなみの指導項目

所属大学でのユニフォーム着用時の身だしなみについて、複数選択を含む内容で回答を求めた。表2に示

表1 調査協力大学と回答者の概要

n = 80

属性区分		人数 (人)	割合 (%)
性別 (2 区分)	男性	1	1.2
	女性	79	98.8
年齢*	平均年齢 48.5 ± 9.0 (30-66)		
所属大学種別 (3 区分)	国立大学法人	12	15.0
	公立大学・公立大学法人	13	16.2
	私立大学	55	68.8
職位 (4 区分)	教授	33	41.3
	准教授	24	30.0
	講師	17	21.2
	助教	6	7.5
教育経験年数*	平均年数 16.3 ± 8.4 (2-40)		
指導領域	基礎看護学	66	82.5
	成人看護学	8	10.0
	小児看護学	2	2.5
	老年看護学	1	1.2
	基礎・成人看護学	1	1.2
	管理看護学	1	1.2
	無回答	1	1.2
指導教員人数*	平均人数 5.4 ± 1.6 (2-10)		
学生定員人数*	平均定数 88.1 ± 23.5 (50-200)		
学生の男女の比率 (%)*	平均 女子89.1 ± 6.1 (67-100)	平均 男子10.9 ± 6.1 (0-33)	

\* 平均値 ± 標準偏差 (範囲)

表2 身だしなみの指導項目

n = 80

指導ポイント		人数	割合 (%)
身だしなみのポイント (4 区分) 複数回答	外見的にも清潔感がある	80	100.0
	機能的である	46	57.5
	健康的である	28	35.0
	安全への配慮がされている	63	78.7
	その他	5	6.3
チェックリスト使用の有無 (2 区分)	あり	34	45.9
	なし	40	53.3

す。

身だしなみの指導ポイント 4 項目を上位項目順に、外見的にも清潔感があるが80名 (100%)、次に安全への配慮がされているが63名 (78.7%)、機能的であるが46名 (57.5%)、健康的であるが28名 (35.0%)、その他 5 名 (6.3%) の順であった。(複数回答) その他の回答では、信頼されることや実習病院の規定を満たす等であった。

身だしなみのチェックリスト使用の有無では、ありが34名 (45.9%)、なしが40名 (53.3%) であった。なしの自由回答では、1 年次のみ使用する、実習要項に

記載している、実習施設の規定に合わせている、モデル図で指導する等であった。

### 3. ユニフォームに関する項目

表3に示す。

1) ユニフォームの自費購入の有無では、自費77名 (96.3%)、貸与 1 名 (1.3%)、その他では貸与と自費合わせて 2 名 (2.5%) であった。購入金額は、購入枚数にもよるが4500円～34000円の範囲であり、購入平均額は11283円であった。エプロンの着用の有無では、ありが14名 (17.5%)、なしが62名 (77.5%)、そ

表3 ユニフォーム着用に関する概要

n=80

		人数 (人)	割合 (%)
ユニフォームの購入 (3区分)	自費	77	96.3
	貸与	1	1.3
	その他	2	2.5
ユニフォーム購入金額*	平均11282.9±5646.4 (4500-34000)		
エプロン使用の有無 (3区分)	あり	14	17.5
	なし	62	77.5
	その他	4	5.0
ナースキャップの有無 (2区分)	あり	0	0.0
	なし	80	100.0
ユニフォームの種類 (複数回答)	上下セパレート	79	98.8
	ワンピース	16	20.0
	スクラブ	2	2.5
	その他	1	1.3
ユニフォームの枚数の有無 (複数回答)	上下セパレート 1枚	6	7.5
	2枚	55	68.8
	3枚	2	2.5
	その他	10	12.5
ユニフォームの色彩の有無 (4区分)	大学指定カラー	50	62.5
	白	16	20.0
	柄	6	7.5
	その他	10	12.5
ユニフォーム交換の有無 (3区分)	毎日交換	33	41.3
	学生の任意	42	52.5
	その他	5	6.2
ナース靴の種類 (複数回答)	ナース靴	75	93.8
	運動靴	6	7.5
	その他	1	1.3
髪型の有無 女子 (複数回答)	襟につかない	70	87.5
	前髪が頬に触れない	51	63.7
	まとめる	65	81.3
髪型の有無 男子 (複数回答)	襟につかない	60	75.0
	前髪が頬に触れない	40	50.0
	まとめる	19	23.7
ネットの使用の有無 (2区分)	あり	61	76.3
	なし	19	23.8
髪色の有無 (複数回答)	地毛	36	45.0
	美容院ヘアカラー番号	35	43.8
	自由	5	6.3
	その他	13	16.2

\* 平均値±標準偏差 (範囲)

の他4名(5.0%)であった。自由回答には、小児や老年、在宅など特定の領域で使用するであった。

2) ユニフォームの種類では、上位項目順に上下セパレートが79名(98.8%)、ワンピースが16名(20%)、スクラブが2名(2.5%)、その他が1名(1.3%)で、自由回答には、学生が自由に選ぶであった。ユニ

フォームの枚数は、上下セパレートでは1枚が6名(7.5%)、2枚が55名(68.8)、3枚が2名(2.5%)、その他が10名(12.5%)で、学生が決めている、2枚以上で指導をしている等であった。3枚上の場合は、ワンピースと組合せているとの回答もみられた。スクラブでは、男子に限定していた。ユニフォームの色彩



(色)は、大学指定カラーが50名(62.5%)、白が16名(20.0%)、柄が6名(7.5%)、その他が10名(12.5%)であった。自由回答では、上下の色は白と紺であったり、指定デザインや水色であったり、また、自由に選択させる等であった。

3) ユニフォームの交換の有無では、毎日が33名(41.3%)、学生の任意が42名(52.5%)、その他、自由回答に、2日に1回、汚染時交換する、毎日交換を指導する等であった。ナースシューズの種類は、ナース靴が75名(93.8%)、運動靴が6名(7.5%)であった。

#### 4) 髪型と髪色について

(1) 髪型では、複数選択とし、女子の場合では、襟につかないが70名(87.5%)、前髪が頬に触れない(サイド)が51名(63.7%)、コンパクトにまとめるが65名(81.3%)、ネットの使用の有無では、ありが61名(76.3%)、なしが19名(23.8%)、他に自由回答では、規定していない、髪の長さに応じて対応する等であった。男子の場合では、襟につかないが70名(75.0%)、前髪が頬に触れない(サイド)が40名(50.0%)、コンパクトにまとめるが19名(23.7%)であった。他には、短髪で、清潔感のある髪型や前髪が目にかからない、髭をそる、もみあげの規定がある等であった。

(2) 髪色では、地毛が36名(45.0%)、美容院ヘアカラー番号が35名(43.8%)、自由が5名(6.3%)であった。美容院ヘアカラー番号では5-7以下を指示していた。他には自然な色、華美にならない色、実習施設の美容院ヘアカラー番号で指導している、学生の自主性に任せている等であった。

#### 4. 身だしなみに関するチェックリスト項目

身だしなみの指導ポイントの4項目中、1項目の「外見的にも清潔感がある」は、全員が「指導を求めた群」に回答していることから比較対象とならないため除外した。他、3項目の「機能的である」、「健康的である」、「安全への配慮がされている」を、それぞれ「指導を求めた群」と「指導を求めている群」の2群に分け、身だしなみに関するチェックリスト項目(36項目)を4段階尺度で回答を求め、関連があるか比較するために、Mann-WhitneyのU検定で分析をした。比較した結果、いずれもユニフォームの項目には関連が見られなかったが、頭髮に関する3項目と、装飾品、爪に関する1項目に有意差が見られた。表4に示す。

(1) 指導ポイントの3項目の「健康的である、機能的である、安全性への配慮」とチェックリスト項目36項目中の「ユニフォーム14項目」と「化粧や眼鏡8項目」の関連には有意差は認められなかった。(p>0.05))

(2) 指導ポイント項目の「機能的である」と「チェックリスト項目の「頭髮3項目(髪色、頬に髪がつかない、襟に髪がつく)」に有意差がみられた(p<0.05)。

指導ポイントの「健康的である」とチェックリスト項目の「装飾品、爪の1項目(腕時計)」に有意差がみられた(p<0.05)。

## VI. 考察

本研究では、看護基礎教育でユニフォーム着用を含む身だしなみを、どのような視点で指導をしているのかを明らかにすることである。

今回の調査結果から、看護基礎教育での、身だしなみも含めた指導領域は、基礎看護学領域が8割、次いで成人看護学領域が1割であった。基礎看護学領域が大半を占めていた。このことは、学生が入学後初めて学習する専門科目が基礎看護学領域であり、学生の今後の学習活動への影響を考えれば、当然の結果といえる。少数ながら、小児看護学領域や老年看護学領域なども身だしなみを指導していることから、ユニフォーム着用時の身だしなみの指導は領域を問わず、学生が身だしなみを整えられるよう関わる必要があると考える。

#### 1. ユニフォーム着用時の身だしなみの指導項目

看護職の身だしなみはエビデンスに基づいた感染・標準予防策を基本としている。身だしなみの指導ポイント4項目中3項目である「外見的にも清潔感がある」、「安全への配慮がされている」、「機能的である」が6割程度であった。「外見的にも清潔感がある」は全員が回答をしていた。看護職は対人関係の担い手であり、受け手である患者に不快感を与えず、周囲の人が好ましいと感じる服装を求められ、信頼感と安心感を与えると考える。「外見的にも清潔感がある」は、手指や髪型、服装や身につけるものを清潔にすることは、患者や家族を守るうえで、医療者として当然の責任である言える。また、自分では清潔にしているつもりでも、清潔感は相手が清潔と感じるかどうかで決まる。このことから、派手な化粧や茶髪、乱れた髪

表 4 身だしなみの指導項目と身だしなみのチェックリスト項目との関連

n = 80

	機能的												健康的												安全性											
	指導を求めた群				指導を求めていない群				p 値				指導を求めた群				指導を求めていない群				p 値				指導を求めた群				指導を求めていない群				p 値			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
チェックリスト項目	3	10	27	5	3	8	16	7	0.659	2	6	14	5	4	12	29	7	0.789	5	15	33	9	1	3	10	3	0.552									
ユニフォーム 1 : 洗濯	1	4	24	16	2	4	17	11	0.573	2	1	13	11	1	7	28	16	0.421	2	5	34	21	1	3	7	6	0.626									
ユニフォーム 2 : しわ・プレス	2	2	15	26	1	2	9	22	0.477	1	1	6	19	2	3	18	29	0.27	3	2	21	36	0	2	3	12	0.478									
ユニフォーム 3 : ファスナー、ボタン	2	11	16	16	3	3	14	14	0.426	2	3	10	12	3	11	20	18	0.378	3	10	25	24	2	4	5	6	0.407									
ユニフォーム 4 : シミ、汚れ、ほつれ	5	6	9	23	7	1	8	15	0.596	7	1	5	12	5	6	12	26	0.385	10	4	16	27	2	3	1	11	0.387									
ユニフォーム 5 : 名札を規定位置	9	14	11	9	8	12	7	7	0.853	4	12	4	7	13	14	14	9	0.702	14	23	11	13	3	3	7	3	0.397									
ユニフォーム 6 : 規定 (名札など) 外	7	21	11	5	7	15	8	4	0.926	3	17	4	3	11	19	15	6	0.636	12	28	15	6	2	8	4	3	0.447									
ユニフォーム 7 : 両ポケットに規定外	2	11	17	15	3	8	12	11	0.745	1	5	8	13	4	14	21	13	0.059	5	15	24	18	0	4	5	8	0.181									
ユニフォーム 8 : 丈は既定の長さ	5	9	16	15	3	12	9	10	0.544	1	5	11	10	7	16	14	15	0.121	7	17	21	17	1	4	4	8	0.211									
ユニフォーム 9 : 香水使用	3	7	19	16	4	9	14	7	0.077	2	2	14	9	5	14	19	14	0.154	6	13	27	16	1	3	6	7	0.277									
ユニフォーム 10 : インナー着用	1	3	15	26	0	2	11	21	0.563	0	1	9	17	1	4	17	30	0.597	1	3	22	36	0	2	4	11	0.807									
ユニフォーム 11 : 袖口、襟口 (インナーがでていないか)	1	4	13	27	0	1	11	22	0.568	0	1	7	19	1	4	17	30	0.21	1	3	20	38	0	2	4	11	0.888									
ユニフォーム 12 靴下の色 (指定又は白)	3	9	16	17	3	6	12	13	0.987	3	2	7	15	3	13	21	15	0.06	6	11	21	24	0	4	7	6	0.893									
ユニフォーム 13 靴下の丈 : 踝以上	2	8	20	15	2	9	14	9	0.339	1	3	12	11	3	14	22	13	0.07	3	12	29	18	1	5	5	6	0.847									
ユニフォーム 14 靴 : 清潔の有無	2	3	20	19	1	4	5	24	0.029 *	1	1	8	17	2	6	17	26	0.316	3	4	22	32	0	3	3	11	0.595									
頭髪 1 : 不快与えていないか頭髪の色であるか (カラーリング)	8	21	12	4	10	16	6	2	0.214	5	10	8	4	13	27	10	2	0.095	15	27	15	5	3	10	3	1	0.81									
頭髪 2 : 毎日洗髪	1	5	21	17	1	4	10	19	0.16	1	1	11	14	1	8	20	22	0.386	2	6	28	25	0	3	3	11	0.231									
頭髪 3 : 前髪が目にかからない	2	3	20	20	1	1	9	23	0.033 *	2	1	10	14	1	3	19	29	0.602	3	2	24	33	0	2	5	10	0.816									
頭髪 4 : 両サイドの髪が頬に触れない	1	7	17	20	1	1	9	23	0.024 *	1	2	8	16	1	6	18	27	0.605	2	5	23	32	0	3	3	11	0.551									
頭髪 5 : 髪の毛先がユニフォームの襟につかない	2	5	15	23	1	3	5	25	0.051	1	1	5	20	2	7	15	28	0.095	3	5	18	36	0	3	2	12	0.512									
頭髪 6 : 長髪の場合ネットなどを使用	2	11	16	16	2	5	15	12	0.707	1	5	8	13	3	11	23	15	0.178	4	13	24	21	0	3	7	7	0.397									
化粧や眼鏡 1 : つけまつ毛、エクステ	1	9	21	14	1	7	10	16	0.26	1	4	10	12	1	12	21	18	0.451	2	13	24	23	0	3	7	7	0.66									
化粧や眼鏡 2 : 派手なアイメイク	3	8	22	12	2	7	11	14	0.33	1	3	13	10	4	12	20	16	0.278	5	11	28	18	0	4	5	8	0.288									
化粧や眼鏡 3 : ナチュラルメイク	9	21	12	3	11	13	8	2	0.458	5	10	10	2	15	24	10	3	0.13	16	27	17	2	4	7	3	3	0.585									
化粧や眼鏡 4 : 眼鏡華美フレーム	9	19	13	4	11	14	7	2	0.235	5	9	11	2	15	24	9	4	0.105	16	28	16	2	4	5	4	4	0.198									
化粧や眼鏡 5 : 眼鏡フレームの色	10	17	12	6	12	12	7	3	0.251	5	8	12	2	17	21	7	7	0.112	18	24	15	5	4	5	4	4	0.262									
化粧や眼鏡 6 : 眼鏡レンズに色	4	12	15	14	4	5	14	11	0.577	2	3	10	12	6	14	19	13	0.055	7	13	25	17	1	4	4	8	0.291									
化粧や眼鏡 7 : カラーコンタクト	5	13	16	10	4	7	11	11	0.407	3	4	9	9	6	16	18	12	0.217	7	17	20	16	2	3	7	5	0.589									
化粧や眼鏡 8 : 男性学生は髭を剃っているか	1	8	14	21	3	6	9	16	0.735	1	2	7	16	3	12	16	21	0.06	4	11	17	29	0	3	6	8	0.786									
装飾品、爪 1 : ネットクレス	1	5	10	29	2	2	11	19	0.599	1	0	6	20	2	7	15	28	0.072	3	4	18	37	0	3	3	11	0.883									
装飾品、爪 2 : ピアス	4	10	18	13	5	8	10	11	0.751	1	3	13	10	8	15	15	14	0.035 *	9	13	22	18	0	5	6	6	0.404									
装飾品、爪 3 : 腕時計	7	13	10	15	9	5	3	17	0.556	4	4	5	14	12	14	8	18	0.116	13	12	11	26	3	6	2	6	0.602									
装飾品、爪 4 : 指輪	11	14	11	9	7	9	8	10	0.352	7	4	7	9	11	19	12	10	0.334	15	17	16	14	3	6	3	5	0.717									
装飾品、爪 5 : ミサンガ	1	1	10	33	0	0	5	29	0.202	0	0	4	23	1	1	11	39	0.257	1	0	11	50	0	1	4	12	0.367									
装飾品、爪 6 : 爪の長さ	8	9	10	18	9	6	4	15	0.865	6	2	4	15	11	13	10	18	0.183	14	11	11	26	3	4	3	7	0.97									
装飾品、爪 7 : 付け爪	5	9	11	20	4	7	6	17	0.693	2	2	9	14	7	14	8	23	0.198	9	12	14	27	0	4	3	10	0.216									
装飾品、爪 8 : マニキュア																																				

4段階尺度 : 4. 良く指導する 3. 時々指導する 2. あまり指導していない 1. 全く指導していない

身だしなみの指導ポイントの 4 項目中、1 項目 (外見的にも清潔感がある) は、全員が指導を求めていると回答していることから比較対象とならないため除外した。

Mann-Whitney U 検定

\* &lt; 0.05

毛、無精ひげ、マニキュア等は人によって不快と感  
じることを念頭におき指導している。「安全への配慮  
がされている」では、患者と自分自身の安全確保、装  
飾品等は患者と関わる際に、皮膚に傷をつける可能性  
もあることから、感染予防の観点から重要視している  
と考える。他に、「機能的である」は、活動時に妨げ  
にならない服装かどうかを優先的に意識し指導をして  
いると考える。

一方、身だしなみの指導ポイントの「健康である」  
が3割弱の回答であった。予測していたより低めの回  
答となった。患者や周囲の人からみても元気に見える  
かどうかの問いであったが、学生は健康であることを  
前提として回答されたと推察される。さらに、「健康  
的である」の捉え方は、体調管理がイメージされるた  
めに、身だしなみの指導の中に含まれていないことが  
考えられる。

身だしなみのチェックリスト使用の有無では、大学  
側で作成したもの、または指導領域で作成したチェッ  
クリストを活用し5割弱が身だしなみの指導をしてい  
た。チェックリストがあることで、学生自身が確認し  
ながら身だしなみを整えることができる。チェックリ  
ストを活用せずに指導をしているが5割強とチェッ  
クリスト使用よりやや回答が上回っていた。これらは、  
感染予防のための身だしなみ<sup>3)</sup>として授業で教授した  
り、使用テキストによって詳細に記載されたりと  
チェックリストの役割も果たしていると考える。他  
に、自由回答では、チェックリストの活用を1年次  
のみ使用するであったり、実習要項に記載されてい  
たり、実習施設の規定に合わせるなど、チェックリス  
トに拘らず指導していることが明らかになった。ユニ  
フォーム着用における身だしなみが定着していない学  
生にとっては、チェックリストの活用は、外発的動機  
づけの役割も担っていると考えられる。

## 2. ユニフォーム着用に関する項目

ユニフォームの種類では、上位項目順に上下セバ  
レートがほぼ大半を占め、主流となっている。これら  
は、看護職のユニフォームの変化と同様に、機能性の  
向上の他に、男性看護師の増加、ユニフォームの自由  
化の背景が挙げられる<sup>5)</sup>。ユニフォームの色彩では、  
大学指定のカラーが6割を占めている。白は2割弱で  
あり、それぞれの大学を象徴するスクールカラー色を  
取り入れたユニフォームが多くを占めていた。他に、

自由回答では、カタログから自由に選択させる等、個  
人の裁量に任せている大学もみられていた。

ユニフォームの交換は、毎日交換しているが4割で  
あり、学生の任意や判断は6割弱であった。学生の所  
有するユニフォームの枚数は2枚が最も多く、中には  
3枚購入している学生もいる。ユニフォームの交換  
は、細菌的調査の結果からも1日着用後に交換するこ  
とが望ましい<sup>8)</sup>と云われている。しかし、先行文献  
では、学生のユニフォームの着用日数は学年が上がる  
ことに交換の日数が長くなっている。また、交換の指  
導は学生の任意や判断としているのが6割であること  
から毎日の交換は困難であると示している<sup>8)</sup>。今回の  
調査結果でも、ユニフォームの交換は、学生の任意や  
判断が、6割弱であったことから教育側が看護専門職  
として学生自身の管理の下で、ユニフォームの清潔を  
維持する能力の獲得を期待している表れではないかと  
推察する。感染予防の観点からは、毎日の交換を推奨  
することは必要であると考えられる。

## 3. 身だしなみの指導ポイントとチェックリストとの 関連

身だしなみの指導ポイントの4項目中、1項目の  
「外見的にも清潔感がある」は、全員が指導を求めて  
いた。他に、3項目の「健康的、機能的、安全性」と  
チェックリスト項目36項目の中で、「ユニフォーム14  
項目」と「化粧や眼鏡8項目」の関連には、有意差は  
認められなかった ( $p>0.05$ )。このことは、看護者の  
身だしなみは「エビデンスに基づいた感染・標準予防  
策」を基本とし、外見的にも清潔感がある、安全への  
配慮がされている、健康的である、作業着として機能  
的なことを踏まえ、ユニフォームの着用を指導してい  
ることが明らかになったと言える。

1) 指導ポイント項目の「機能的である」とチェッ  
クリスト項目の「頭髪に関する2項目(髪色、頬に髪が  
触れない、襟に髪がつかない)」に有意差がみられた  
( $p<0.05$ )。これらは、指導をする上で重要視してい  
る項目である。先行研究にある看護学生の望ましい髪  
型や髪色の実態調査等の結果と本研究で得られた項目  
と同様の内容であった<sup>6,7,9,10,11,12)</sup>。また、髪型では、  
ショートヘアの場合、長髪の場合も同様に、顔回りに  
髪がかからない、コンパクトにまとめる、ネットを使  
用する等が全体の8割であった。すっきりとまとめた  
髪型は、服装等の身だしなみを整えることで、円滑に



業務をすることが可能になることを示していると考ええる。髪色の指導では、地毛が全体の5割弱、茶髪を示す美容院ヘアカラー番号での指導が4割強であった。このことから、カラーリングが一般的になっていることを考慮し指導している現状が明らかになった。また、美容院ヘアカラーの番号は5-7以下であり、地毛に近い黒色からダークブラウン（暗め）で指導していた。他に、自然な色、華美にならない色と学生の自主性に任せている等であった。これらのことは、看護師からみた看護学生の茶髪許容度や一般市民からみた看護師の茶髪許容度は、評価される側の看護師の許容度は低下しているが、評価する側の年齢が高くなるにつれて茶髪に否定的である<sup>12)</sup>と述べている。このように、髪色が地毛でなければならないということは、対人関係が重要視される職業である所以であると考えられる。

2) 指導ポイント項目の「健康的である」とチェックリスト項目の「装飾品、爪の1項目（腕時計）」に有意差がみられた ( $p<0.05$ )。指導ポイント項目の「健康的である」は、患者や周囲の人からみても元気で健康的に見えるかどうかの間であったが、腕時計の項目に関連がみられている。健康的であると腕時計の関連は、今回の結果だけでは関連の背景まで導くことができにくかった。

#### 4. 研究の限界と課題

本研究は、看護基礎教育に携わる日本看護系大学265校の看護学領域責任者を対象に調査を行った。患者や看護学生を対象とする身だしなみに関する先行研究は存在したが教育担当者へのアンケート調査を全国規模で行った調査研究は初めてであり、本研究の意義は大きいと考える。しかし、今回の質問紙では、それぞれの身だしなみ（ユニフォーム着用時）の項目について選択肢で回答を求めているため指導内容の詳細について把握できないことは、本研究の限界といえる。

今後は、自由記述方法を用いて、指導するうえで考慮していることなどを明らかにすることが課題である。

## VII. 結論

本研究では、看護基礎教育でユニフォーム着用を含む身だしなみを、どのような視点で指導をしているのかを明らかにした結果、以下の示唆を得た。

1. ユニフォーム着用の指導領域は、基礎看護学領域が8割と大半を占めていた。
2. 身だしなみの指導で、重要視した項目は、外見にも清潔感がある、安全への配慮がされている、機能的である、健康的であるの順であった。
3. 指導ポイント項目の「機能的である」とチェックリスト項目の「頭髮3項目（髪色、頬に髪がつかない、襟に髪がつく）」および、指導ポイント項目の「健康的である」とチェックリスト項目の「装飾品、爪の1項目（腕時計）」に有意差がみられた ( $p<0.05$ )。これらは、指導をする上で重要視している項目であった。

## 謝辞

本研究を実施するにあたり、ご理解とご協力いただきました日本看護系大学の看護学領域責任者の皆様に深く感謝いたします。

本研究は、2017年・2018年度目白大学特別研究費の助成を受けて実施した。報告すべき、利益相反はない。

## 【文献】

- 1) 日本看護協会：看護職の倫理綱領。(2021)  
<https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/rinri/rinri.html>（閲覧日：9月10日）
- 2) 深井喜代子編：基礎看護学技術 I 基礎看護学② 第6版。第4章 感染予防の技術，244 メヂカルフレンド社（2021）
- 3) 茂野香おる編：基礎看護学技術 I 基礎看護学② 第18版。第1章 コミュニケーション，15 医学書院（2021）
- 4) 井上富士子，照沼則子：ナースの品格 接遇・マナー指導ツール集 第1版。基本編第3章，24-36 MCメディア出版（2014）
- 5) 庄山茂子，栃原裕：制服としての看護服の変遷と現在における看護服のデザインの違いが看護師における患者に与える心理的。服飾文化協同研究報告，65-68（2010）
- 6) 長谷部佳子，浪久知子：看護師の身だしなみに対する患者の見解。日本赤十字北海道看護大学紀要7，1-9（2007）
- 7) 野中浩幸，加納みなみ：臨地実習における看護学生の見だしなみに関する意識調査。医学と生物学 第155巻第6号，346-350（2011）
- 8) 岡山加奈，植村直子他：看護学生のユニフォーム交換における認識や行動の実態とユニフォームの細菌汚染。環境感染誌33（2），276-284（2018）
- 9) 徳珍温子，浅井直子，服部暁子他：看護学生が考える「適切ではない」と感じた看護師のみだしなみ。人と環境 Vol.11，13-17（2018）

- 10) 田渕謙太, 後藤悌嘉, 浜口二三恵: 精神科に入院している患者の看護師の茶髪に対する賛否とイメージおよび許容度。第19回日本精神科看護学術集会, 50-54 (2012)
- 11) 廣瀬規代美, 奥村亮子他: 看護婦の身だしなみに関する研究。看護管理 (7), 11 (2001)
- 12) 山田眞佐美, 宮本ありさ他: 看護学生の茶髪はどこまで許せるか。日本看護学会論文集 看護教育32, 104 (2001)
- 13) 新村出編: 広辞苑。第四4版 2457, 岩波新書 (1991)
- 14) 荻あや子, 玉谷奈都美, 岡山加奈: 大学生が患者の視点でとらえた看護師の化粧に対する評価。岡山県立大学保健福祉学部紀要第21 (2), 131-141 (2014)
- 15) 庄山茂子, 青木久恵他: 看護服に関する全国調査。繊維製品消費科学 (2), 164-171 (2012)

(2022年9月28日受付、2022年12月6日受理)

## A survey of guidance to nursing students about appearance and uniforms

Mitsuyo WATANABE<sup>1)</sup>, Hiromi SUZUKI<sup>2)</sup>

### 【Abstract】

**Objective:** To identify the perspectives that inform instruction on grooming and personal appearance, including uniforms, in basic nursing education at nursing colleges.

**Method:** A questionnaire concerning the teaching of grooming, personal appearance, and donning of uniforms to students was sent to 265 supervisors of nursing instruction at 265 Japanese nursing colleges.

**Results:** The survey response rate was 30.0%, with 68.8% of the responses coming from private universities, 16.2% from public universities, and 15.0% from national universities. In 82.5% of the surveys, a question about “area of instruction” drew a response of “basic nursing.” Overall, 42.5% of the institutions used a personal appearance checklist, and in teaching about grooming and personal appearance, instructors placed the greatest importance on outward cleanliness, safety considerations, and functionality, in that order.

**Conclusions:** Significant differences ( $p < 0.05$ ) were observed between the instruction point “Functional” and the three checkpoints “Hair color,” “Hair not touching the cheeks (sides),” and “Hair on the collar.” Those observations suggest the importance that instructors place on those checkpoints in their teaching.

**Keywords:** Appearance, Uniform, Basic nursing education

1) Department of Nursing, Faculty of Nursing, Mejiro University

2) Bunri University of Nursing, Hospitality Faculty of Nursing